

今回は、ふるさとむら活動研修会（丹波市東芦田）に参加された農村ボランティアの方の感想を紹介するとともに、27年度に新たにふるさとむらに登録された地区（淡路市柳沢）の概要をお知らせします。今後のふるさとむらでの活動の参考にしてください。

## 平成27年度 ふるさとむら活動研修会を丹波市東芦田で開催

ふるさとむらの現状を都市住民等に知っていただき、農村ボランティアへの登録促進を図るため平成28年2月6日(土)、丹波市東芦田地区において活動研修会を開催しました。

現地までは神戸市役所「花時計」前から借上げバスを運行し、有料道路を経由して距離約90km、約1時間40分の道のりです。寒さが心配されましたが、現地の天候は晴れ間もあり、良好でした。

現地集合を合わせて計28名の農村ボランティアの参加となり、「東芦田公民館」でオリエンテーションの後、2班に分かれて、①キャベツの収穫・出荷準備作業、②桃及び柿の剪定作業を行いました。炊き込みご飯のおにぎり、かす汁、煮しめ、切干大根の炊いたものなど地区農村女性手づくりの昼食をとりながらの意見交換も活発になされ、午後の作業は、午前の班との入れ替わりで、それぞれ時間一杯頑張っていました。



<東芦田地区活動研修会に参加して>

お問い合わせ先  
090-5257-2151 (芦田)

今回は、2月とは思えないほどの陽気に恵まれ、とても楽しく農作業をすることができました。

私は畑に植わっているキャベツや白菜を間近に見たことがなかったので、その大きさには本当に驚かされました。桃の剪定もキャベツの収穫も、みんな初めての経験ばかりだったので、たくさんの失敗をしてしまいました。切り落とすつもりのない枝を折ってしまったり、収穫サイズになっていないキャベツを切り取ってしまったり・・・。（農家さんすみません!）

それでも東芦田の皆さんが優しく指導してくださったお蔭で、最後にはなんとか「0.3人前」くらいにはなれたかな?と、思います。

このような楽しい体験をたくさんさせてくださった東芦田、楽農センターの皆様、本当にありがとうございました。また是非、農業ボランティアに参加して、今度はせめて「0.5人前」くらいの働きをしたいと思います。

(神戸市 中川 佐和子さま)



オリエンテーション



キャベツの収穫作業



キャベツの選別作業



昼食時の意見交換会



桃の木の剪定作業



剪定後の焚火

2月6日(土)丹波市東芦田でキャベツ収穫作業を行ってきました。三宮からバスで1時間半余、丹波市東芦田地区到着。公民館で集落の現状や作業手順を聞いて圃場へ移動。当地は山々に囲まれ自然豊かな日本の原風景のような里です。冬のピンと張りつめた中にも心地良い日差しを浴びながら作業開始。根切り包丁が少ないため根切りとキャベツ回収、軽トラ積み込み班に分かれ作業を始めました。前屈みでの作業は時間と共にじわじわ腰に来るものがありましたが、参加されている皆さんはやる気満々元気な動きで、やや汗ばんできた頃には予定数を軽く超えるほどのハイペースでした。

その後、作業小屋に移動しての計量、箱詰め作業を行いました。

一段落の後、暖冬で収量が増えすぎ価格が下がり、出荷できなくなった白菜を持ち帰って欲しいとの農家さんの依頼で畑に移動、大きな白菜を各自収穫し頂きました。手塩にかけた作物が天候のいたずらで取れすぎて出荷出来なくなった事は報道でも聞きますが、今回図らずも目の当たりにして、自然相手の農業の難しさを垣間見て何とも言えない複雑な気持ちになりました。

(神戸市 雲田 糺さま)



キャベツの軽トラ積み込み



ハクサイの収穫作業

ここ東芦田には何年前かに“丹波大納言小豆の収穫作業”で来ており、今回は2回目である。

バス組23名、現地直行組5名の計28名の参加者を2班に分け、キャベツ収穫と桃剪定を午前と午後に変更実施した。

キャベツは1キログラム以上の物を収穫という事で、班員14名が一斉に作業開始。間もなく球だけでなく外葉を3~5枚付けて収穫せよとの伝令。なるほど出荷時、外葉が球の保護になると納得。作業1時間程で収穫ストッパーが掛かる。穫り過ぎである。昼迄はまだ時間があり出荷作業場へ移動。手入れ、選別し箱詰めする。

午後は桃の剪定作業、良い枝は残し悪い枝は切る。言うは簡単であるがこの見分けが難しい。日当たり、風通しを考え、花をつけ実になる枝部を残し他を切る。病気、また弱っている枝は元より切る。リーダーの指示に従いノコを引く、ハサミを入れる。

昼食は地区ご婦人方に腕をふるって頂いた。煮しめは好評、手作りの料理をいただいた。

意見交換では、「各地区のふるさとむらに順次バス運行を」との要望も出た。

とにかく、お世話いただいた地区の方、また参加者にも農業に対する熱い思いを感じた1日であった。

(明石市 高瀬 義照さま)



手作りの料理



圃場へ移動



キャベツの箱詰め作業



## 新しくふるさとむらに仲間入りしました「柳沢 (やなぎさわ)」です

淡路市柳沢地区は淡路市西部、旧一宮町の岩上山系の裾に広がる丘陵地に位置し面積3.3km<sup>2</sup>、3町内会で構成される集落は169戸、390名(65歳以上166名、高齢化率43%)が住み、棚田における米作中心の少子高齢化が進む中山間地域です。

その棚田景観は淡路百景に準ずる景観として「棚田一枚一枚は決して広くはないが牛舎、キク畑、水田、家屋がモザイク状にあることが特徴」と評価されています。そんな棚田でとれたお米は粘りが強いのが特徴で、「柳沢米」として特産品になっています。

町内会の催しとしては、毎年4月第一日曜日に水田を活用した菜の花田での香りと景観を楽しむ菜の花まつりや菜の花田での餅まきなどを行なう「ふれあい春祭り」があり、平成27年度は400名の来場者がありました。

また、秋には地域あげでの「コスモス祭り」があり、自家野菜の販売やぜんざい、豚汁、おにぎり、ポン菓子無料配布やふるまいで阪神、四国方面から1,000名以上来て頂いております。

他に、各部門の活動として七宝焼、手芸などの創作活動や100歳体操も毎週金曜日に実施しています。

本年度、県の指導で棚田を利用したイベント「柳沢竹灯籠 棚田のあかり」～ひととき 幽玄の世界へ～を平成27年12月12日(土)に開催し、竹灯籠1,000本で地域の活性化に取り組みました。

この度、平成28年2月20日(土)の農村ボランティア活動研修会において初めて農村ボランティアを受け入れしました。

竹林伐採(竹灯籠)、ジャガイモ植付け作業、鳥獣防護柵設置作業、シイタケ菌種入れ等を参加者28名が3班に分かれ小雨の中、地域の環境や棚田の風景を見ながら交流を深めました。

昼食時には淡路島ではイノブタと呼んでいますイノブタ汁を大鍋に炊き、棚田米のおにぎりを味わい柳沢地域独特の食事をしました。又、餅つき体験や春菜のよもぎ餅を食べていただき、その後ふるさとむらメンバーと研修会参加者とで活発な意見交換を行いました。

今後、皆さまのご指導とご参加を頂き、ふるさとむら活動を通じて当地域が活性化し、都市と農村の幅広い交流ができればと願っています。



お問い合わせ先  
0799-86-0300(藤本)



オリエンテーリング



竹林伐採作業



ジャガイモ植付け作業



鳥獣防護柵設置作業



シイタケ菌種入れ作業



イノブタ汁大鍋



餅つき



意見交換会



特産品

## 都市農村交流バス運行支援制度についてのお知らせ

兵庫県では都市と農村の交流を推進するため、次のようなバス運行への支援制度があります。

### 農山村応援活動バス

県内の中山間地域で、集落と共同で行う農地・農村の保全活動

**利用対象者** 農村でボランティア活動を実施しようとするグループ

#### ● 農村ボランティア活動とは

豊かな自然環境の中で、農作業や農村を元気にする活動を応援する活動です。

関心のある方は下記までお問い合わせください。

(※) 中山間地域とは、山間地及びその周辺の地域で地勢等の地理的条件が悪く、農業の生産条件が不利な地域。

#### 助成内容

バス1台につき 日 帰 り : 2万5千円

1泊2日 : 5万円

(ただし、バス借り上げ経費がこれを下回る場合は、その借り上げ経費が上限)。

1回の申し込みで3台まで利用可能。

利用バス1台につき、10人以上の参加者が必要。

#### 申込方法

申込期限 : 利用日の20日前まで

提出書類 : 所定の申込書、バス費用の見積書等

提出方法 : 郵送または窓口申し込み。

バスの利用案内、申込用紙は兵庫楽農生活センターホームページからダウンロードできます。

#### 受 付

各期ごとに台数設定をし、先着順で受付します。

#### 受付期間

通年

お問い合わせ

農村ボランティア事務局 (兵庫楽農生活センター内)

TEL 078-965-2651

FAX 078-965-2653

**編集・発行** (公社)兵庫みどり公社 兵庫楽農生活センター 楽農交流課 農村ボランティア事務局

所在地 : 〒651-2304 神戸市西区神出町小束野 30-17

電 話 : 078-965-2651 FAX : 078-965-2653

E-mail : koryu@forest-hyogo.jp H P : <http://hyogo-rakunou.com/nousonbora/>